

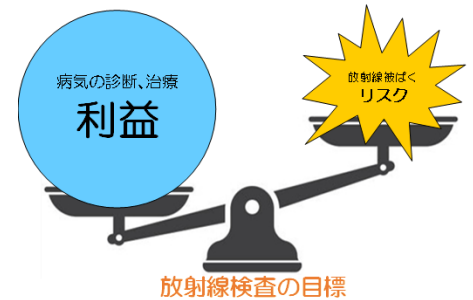
放射線診療を受ける患者さんへの説明書

はじめに

放射線を用いた画像診断は病気を発見し、病気の状態を知り、治療に必要な情報を得るために有効な手段です。

『検査の正当性』

患者さんには、大きな利益を得ることができる一方で、放射線を使用するため被ばくを伴う検査となります。検査により病気を診断・治療する上で得られる情報（利益）の方が、放射線による身体への影響より十分に大きいと判断された場合に、患者さんに検査を提案し実施いたします。また、放射線検査を一定期間毎にすすめることがあります。それは病気の発見や異変、治療効果など適正に検出し、最善の治療につなげることを目的とします。



なお、複数回の放射線検査を受けた場合、その影響が蓄積するわけではありません。からだには、けがの回復と同じように、放射線による影響に対しても修復する機能が働きます。

『放射線がからだに及ぼす影響について』

放射線の影響には、確定的影響と確率的影響があります。

- ・ 確定的影響（脱毛・白内障・皮膚障害等）

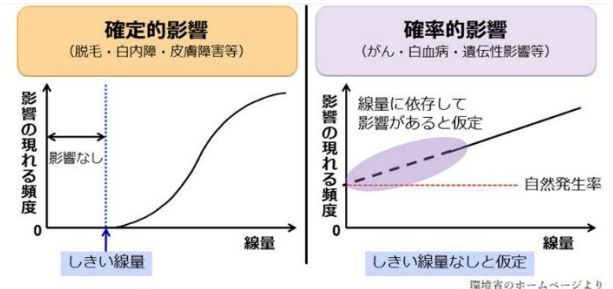
基準の線量（しきい線量）を超えない限り発生することはありません。

- ・ 確率的影響（がん・白血病等）

受けた放射線の量に応じて生じる影響で、100～200

ミリシーベルト以下の低線量域での影響は、非常に

小さく、生活習慣等の影響と区別がつかないため、放射線によるリスクの増加は明らかになっておりません。



『被ばく低減の試み』

当院では、診断参考レベルといわれる患者被ばくの適正化に使用される指標を用いて、照射線量を適正化しています。また、被ばく線量を個別に管理するシステムを導入し運用しています。

当院の標準体型における被ばく線量

検査種（指標）	部位	当院の値	診断参考レベル
CT 検査（CTDIvol）	頭部	57.6mGy	77mGy
	胸部	9.2mGy	13mGy
	上腹部～骨盤	10.6mGy	18mGy
	冠動脈	39.9mGy	66mGy
血管造影検査（Ka.r）	脳血管診断	380mGy	590mGy
	心血管診断	434mGy	700mGy
核医学検査（投与量）	骨	880MBq	950MBq
	心筋血流	746MBq	840MBq

（mGy：ミリグレイ、MBq：メガベクレル）

※今回の説明・同意の取得は、今後の同様の検査にも適用することとする。